

薬の伝言板 ～貧血～



No.285 2021年8月
丸子中央病院 薬局

貧血とは・・・

貧血とは、血液中の赤血球に含まれるヘモグロビンという物質が少なくなった状態です。
ヘモグロビンは血流に乗って酸素を全身のすみずみまで運ぶ働きをしています。

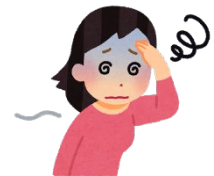
そのため、ヘモグロビンの量が低下すると体の組織に十分な酸素が行き渡らず、さまざまな症状があらわれるようになります。



Hb:ヘモグロビン
O₂:酸素

貧血の症状

めまい・立ちくらみ、動悸・息切れ、顔が青白い、倦怠感・疲れやすい、頭痛・眠気、
集中力の低下、耳鳴り、口角炎・口内炎、味覚の異常など



原因

貧血は赤血球のもとである「鉄分」の不足によるものというイメージが強いかもしれませんが、実は様々な原因があります。

赤血球・ヘモグロビンを作れない	赤血球・ヘモグロビンがなくなってしまう
栄養素の不足 赤血球・ヘモグロビンを作るのに必要な栄養素（鉄、亜鉛、葉酸、ビタミン B ₁₂ ）が不足する。 鉄の不足→鉄欠乏性貧血 ビタミン B ₁₂ ・葉酸の不足→巨赤芽球性貧血	大量の出血、出血の持続 頻発月経、過多月経などの月経異常や、胃・十二指腸潰瘍やがんなどによる出血により、赤血球・ヘモグロビンが不足する。
骨髄の病気 骨髄で赤血球が正常に作られなくなる。 →再生不良性貧血など	赤血球の破壊 細菌感染、免疫の異常、激しい運動などで赤血球が破壊される。 →溶血性貧血
腎臓の病気 骨髄に血液の産生を促す造血ホルモン（エリスロポエチン）が腎臓で正常に作られなくなる。 →腎性貧血	

治療

貧血の治療は原因ごとに異なります。貧血の原因となる疾患がある場合には、それに対して適切な治療を行います。それ以外の場合には、食生活の改善や鉄分の補給などにより、改善をはかります。



鉄欠乏性貧血

鉄分を補給することで、1～2週間程度でヘモグロビン量が増加し始めますが、途中で治療を止めてしまうと、貧血を再発することが多いので、通常、3～4ヶ月程度かけて錠剤などで鉄分の補給を行います。副作用がある場合には、注射やシロップ剤を使用するケースもあります。

鉄欠乏性貧血	内服薬	クエン酸第一鉄
	注射薬	フェジン

また鉄剤の服用中は鉄分の作用で便が黒くなることがありますが、問題はありません。

巨赤芽球性貧血

ビタミン B₁₂ が不足している場合はビタミン B₁₂ を補給します。また葉酸が不足している場合は葉酸を補給することで症状が緩和されます。

しかし、胃を摘出している場合は一時的な服用ではなく、長期的に栄養素を補給する必要があります。

巨赤芽球性貧血	注射薬	シアノコバラミン(ビタミン B ₁₂)
	内服薬	フォリアミン(葉酸)

腎性貧血

腎性貧血には、エリスロポエチンの分泌不足を補う注射薬や、体内のエリスロポエチン産生を促す内服薬による治療が行われます。

腎性貧血	注射薬	ミルセラ
		ダルベポエチン
	内服薬	エベレンゾ
		ダーブロック

それ以外の貧血

急性白血病や多発性骨髄腫、溶血性貧血、再生不良性貧血などが原因で生じている貧血は輸血や免疫抑制剤の服用や抗がん剤、造血幹細胞の移植などの専門的な治療を行います。

貧血を予防するため、日ごろから赤血球・ヘモグロビンを作るための鉄・亜鉛・葉酸・ビタミン B₁₂ などの栄養素をバランスよく、食事から摂るように心がけましょう。

貧血の原因には病気がひそんでいる場合もあります。「よくある症状」と油断せず、貧血の症状がある方は、医師に相談して原因を特定し、適切な治療を受けるようにしましょう。

